

町長室から

今年

台風が多い年ですが、台風21号が

十勝への影響もあまりなく過ぎ去って安心した9月6日午前3時8分に起きたM6.7、最大震度7という「胆振東部地震」には皆さん驚かれたことだろうと思います。

浦幌町では震度4でそれほど大きくは感じませんでした。その後には驚きました。

震源地近くでの停電はこれまで何度も経験してきましたが、胆振地域の地震が浦幌町に長期間にわたり停電の影響を及ぼすとは考えてもいなかったのは私だけではなかったのではないでしょう。

浦幌町は地震発生とともに警戒本部体制を敷き、公共施設には直接的な被害がないことを確認しましたが、世耕経済産業大臣から全道的な停電が復旧までに長時間を要するとの発表もあり、「災害対策本部」を設置する

とともに停電によりテレビなどの情報が切断され、携帯電話などの充電に不安を感じている町民の皆さんも多数にのぼることも想定されましたので、自主避難所を4公民館に開設することを決めて、避難所へは大型発電機を設置して町民の皆様へ周知を開始するなど対応に当たりました。

その間には町内が断水するなどの誤情報も流れたようです。で、通常通りに通水するので安心していただくように登録制メールや町ホームページで周知するなどの措置も行いました。

翌日の未明には停電が解消された地域もありましたが、なお市街の一部地区、上浦幌地区、吉野地区の一部などでは停電が続いている地域もあることから、3日目に入る翌々日から上浦幌公民館のふれあいルームや健康湯、留真温泉の無料開放も決定するなど対応を急ぎましたが、9月7日23時に44時間ぶりに全

地域での停電が解消されましたので、9月8日3時に「災害対策本部」を解散いたしました。

また、NTT回線の通信障害の発生により固定電話機からは119番などの緊急通報が通じなくなりました。浦幌消防署から新聞折込でのお知らせを行いました。

遠く離れた場所での自然災害が停電や電話回線の不通等の身近な生活障害に繋がる事も想定外でしたが、北海道電力の電力供給が一部の火力発電所に依存している事を初めて知り、電力供給の脆弱性を示すものであり今後不安を残します。地球環境に優しく子孫に心配の種を残さないためにもハイオエネルギーの活用など安心安全なエネルギーを確保していくべきではないかと強く感じるところです。

この地震により酪農家の皆さんは停電により搾乳に支障をきたしたり、乳業工場の操業停止

により生乳を廃棄せざるを得なくなったりとの被害も発生しました。

厚真地区を中心に多数のお亡くなりになられた方がおり、また余震が続く中で避難所生活を余儀なくされておられる皆さんも多数おられます。

心からお悔やみ申し上げますとともに一日も早い復興を願うところであります。

現地からの要請もあり、浦幌町から職員を救援活動に派遣しました。

町民の皆さんも現代社会においての電力の大切さを改めて感じられた事と思いますが、北海道電力では発電施設の完全復旧には至っていないことから道民の皆さんに節電を呼びかけており、少しずつの不便さを共有しながら節電へのご協力をお願いいたします。

浦幌町長 水澤一廣